

2024年の年頭にあって

学長 尾池和夫

明けましておめでとうございます。昨年にもいろいろのことがあって皆様のご努力で一年を過ごしてきました。今年も同じようによろしく願いいたします。私は今年、おかげさまで8回目の辰年を迎えることができました。相変わらず口は悪いですが、元気に仕事しています。

2024年は、いきなり大震災で、帰郷中の学生の無事を祈ることが発生しました。また航空機の異常着陸で、学生たちが乗っていないかと心配することが重なりました。防災訓練やリスク管理の仕事の重要性、安否確認システムの活用などの課題を改めて思う正月三が日でした。

今さらのことではありますが、大学は教育、研究、社会貢献を行うために存在する高等教育機関です。公立大学の場合には社会貢献を意識的に地域貢献と言う場合もあります。またこれら3つに国際協力という項目を加えることもあります。いずれにせよ学生たちのために仕事をするという基本がなければなりません。

静岡県立大学の運営は静岡県からの交付金と補助金、学生からの納付金などの自己収入、寄付金、目的積立金などから、およそ82億円の収入によって行われています。それが学生のために使われていなければなりません。

日本には今、私立大学が618、私立短期大学が288、公立大学が98、国立大学が86、株式会社立大学が4、合計1108の大学があります。そのうちの1053が大学ポートレートに参加しています。そこにはそれぞれの大学がどのような大学であるかというポートレートが掲載されています。大学の理念、各学部の状況、いわゆるキャンパスソーシャルワーカーの機能に該当する学生支援の様子、課外活動、売っているキャンパスグッズのお菓子の写真、学食のメニューなども載っていて、受験生たちはそのポートレートを見て自分の人生の方向を決めることができます。

ところが受験生たちの中には大学ポートレートの情報ではなく、大学が受験生のためにだけ作成したホームページや宣伝広告、パンフレットなどで大学を選ぶ人たちもいます。「輝く君の未来に」とか「奇跡の一枚」という伝説で呼ばれる写真とかを用意し、専門のデザイン会社と組んで、うまいSEO対策によって受験生をたくさん獲得している例があります。アメリカ合衆国でGoogleは1日当たり2億4600万件の検索結果を返しています。その

ような世界になっていることにも注意が必要です。

本来、大学受験生の獲得はそれぞれの大学の教育力の特徴によって行われなければなりません。広報を外注して多くの費用を使うのではなく、教育力から生まれた自らの特徴を tantan と広報することによって受験生に伝わるものでなければならぬと思っています。貴重な財源は教育力の改善に投入しなければなりません。そのためにはどのような投資の必要がある場所があるか、広報となるための日常の教育現場のありかたはどのようなものかなど、私たちはいつも考えていなければなりません。

静岡県立大学の大学ポートレートを見ると、大学の理念が掲載されています。そこには、たゆみなく発展する大学、卓越した教育と高い学術性を備えた研究を推進、学生生活の質を重視した勉学環境を整備、大学の存在価値を向上させる経営体制、地域社会と協働する広く県民に開かれた大学を目指すとあります。そしてそれに基づく目標が掲げられています。

静岡県立大学短期大学部のポートレートには、一般教育を重んじ、これと密接な関連を保ちつつ、深く専門の学芸を教授研究し、実際的な応用能力の展開を図り、時代の要請と地域社会の要望にこたえうる有為な人材を育成することを目的とするとあり、特色として、5学部と大学院、短期大学部、研究所の総力を結集して県民の誇りとなる価値ある大学の実現に向け、教育研究活動を実践しますと書かれています。

2021年度には理事長と学長を一体化し、そのもとで事務体制を一本化して、現在までに諸制度を改革して来ました。特に今年度には学長から学内のハラスメント対策に関連してその制度のあり方を皆さんに伺いました。その結果として現在、抜本的な制度改革を行うための規定の書き直しを行っています。その要点は、あらゆるハラスメント行為の訴えを学長が直接聞くことができるようにするという点にあります。また重大なハラスメント行為の加害者に対しては厳重な罰則が適用されることも制度化されなければならないと、私は思っています。制度がきちんと整えられていて初めて、日常の明るい、働きやすい職場が実現すると思っています。

明るい職場で仕事をする教職員の皆さんがいて、ようやくこの大学が学生の為の大学であると言えるようになると思います。特に職員の皆さんは教員と学生のインターフェイスとなる場所におられる場合が多く、あらゆる場所で学生に対して親切な職員であってほしいと願っています。学生たちの大学への印象の多くが、入学してからの、あるいは入学する前からの職員の言動によって左右されるということをご心得いただきたいと思います。

教員についても同じことが言えます。大学の教員は学生に親切でなければなりません。昨年

度から学長が直接読んで答えるという目安箱を設置しましたが、そこに入る学生の意見の中には、教職員の態度に関するものが多々ありました。教員同士のもめ事を学生に見せてほしくないという切実な訴えもあり、職員の態度が受け入れられないという訴えもあり、教員が怖いという訴えもありました。いずれも教職員は学生に親切であってほしいと私が願うきっかけとなる言葉です。もちろん多くの教職員がそのことを守ってくださっていることはよく分かっていますが、1人か2人かという少数の方の不合理な振る舞いがあるために、こうして皆さんに向かって話すという結果にもなっていることをご理解頂きたいと思います。

つまるところは、いつも同じことになりますが、理念に掲げているように大学をいい方向へ変えていくのは、職員の力です。職員一人ひとりの力が未来に向けて働いていることが必要で、それによって大学が少しずつ確実にいい方向に進んでいきます。そして後ずさりしないように絶え間ない努力が必要です。今年の年頭の挨拶では項目ごとにさまざまなことを申し上げました。そしてメールアドレスへご意見をとお申し上げました。それはそれなりに効果的なことを生みました。ただ、ものすごく長いメールを頂いて、とても読み切れなかったこともありました。

高校生たちに未来に希望する職業を聞いた調査の結果を見て、第5位に学者・研究者というのが入っていることを知りました。他の調査でも7位に研究者というのが入っていました。大学で研究する教員や学生の姿が若者に希望を与えているのです。その姿が少しでも正確に見えるように支援しつつ広報するのが職員の仕事であり、法人役員の仕事であります。外部からお願いしている役員や委員の方たちにも、大学内の出来事や研究成果を迅速かつ正確に伝えていただくのも職員の重要な仕事です。研究内容を分かりやすく伝えるための仕組みも、これからの大学には必要だと思います。

昔ながらの大学のままでは、大学は持ちこたえることができない世の中になっています。静岡県立大学でないとできないことがあることが重要です。静岡県立大学が提供する教育の価値が重要です。開かれた大学としてそれを見てもらうことが重要です。脈々と受け継がれている質の高い教育力を見てもらうことが重要です。大学のシステムは、音楽の定額サービスなどのサブスクリプションと同じです。学費に対して、授業や設備を存分に活用してもらって、学生たちに自分の成長を自覚してもらうことが重要です。教職員がそのサブスクリプションを支えます。教職員が学生と一緒に夢や希望を実現していかなければなりません。

大学に金を使うのは無駄と言った人がいますが、それは間違いです。大学は、文化、学問、科学の宝庫で、その無限の資源を有効に活用する方法を学ぶ場所です。教養を身につけ、専門の知識の奥行きを深め、知識の幅を広げ、人生を豊かにすることができる場所です。大学に使う時間も金も決して無駄ではありません。確かに独力で起業するアイデアと能力を

持っている人、スポーツや芸術で特別な才能を持っていたりする人などが大学を出なくても社会で自立していくことができます。就職のために資格だけが欲しくて単位を楽に取ることだけを考える人の授業料を負担する親にとっては、金の無駄使いです。しかし一芸に秀でた人にも私は大学で教養を深めることを進めてきました。

昨年ある学部で、多くの学生が授業の最初だけに在室して出席登録し、最後まで教室にいなかったという状況があることが明確になりました。定額料金だけを払ってサブスクを利用しないもったいない状況が続いているのです。ご馳走のビュフェで高い料金を払い、トレイと食器を受け取ってそのまま何も食べずに帰る人がいるという、そんな状況を生み出してはなりません。これは具体的に今年の解決すべき課題として申し上げておきます。

今年是一般論を中心として年頭の私の挨拶といたしました。またご意見やご批判など、何でも私のアドレスに送っていただきたいと思いますが、ぜひ要点を短く書いていただくと助かります。この一年を健康で楽しく過ごしていただくことを願って私の挨拶といたします。アドレスは、次の通りです。

president（ここに@を入れてください）u-shizuoka-ken.ac.jp

ありがとうございました。